

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第2回上尾市社会教育委員会議	
開 催 日 時	令和7年10月3日（金）午後2時から3時46分まで	
開 催 場 所	上尾公民館 講座室503	
議 長 氏 名	首藤 敏元	
出席者(委員)氏名	首藤 敏元、近藤 博昭、中島 晴美、曾我部 延孝、須賀 聡、 清水 和子、清水 松代、酒井 剛志、鈴木 茂、長谷川 義水、 若原 幸範 (11人)	
欠席者(委員)氏名	山下 文孝、林 孝安(2人)	
事務局(庶務担当)	加藤教育総務部長、池田教育総務部次長、白石生涯学習課長、 山内図書館長、小宮山副主幹、長島副主幹、丸山主任、目黒主任	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	令和7年度第1回上尾市社会教育委員会議 (1) 第6次生涯学習振興基本計画について (2) その他	1 議長 首藤 敏元 副議長 近藤 博昭 2 議事 内容説明及び質疑応答
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 1名
会 議 資 料	別紙のとおり	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 7 年 10 月 23 日 議長の署名 <u>首藤 敏元</u>		

議 事 の 経 過

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
生涯学習課長	1 開会 定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度第2回上尾市社会教育委員会議を開式いたします。なお、本日は、山下委員、林委員が欠席となっております。また、西倉教育長が公務のため欠席しておりますので、御報告申し上げます。
首藤議長	2 首藤議長挨拶 ＜首藤議長挨拶＞
教育総務部長	3 教育総務部長挨拶 ＜教育総務部長挨拶＞
首藤議長	4 議事 「上尾市社会教育委員会議運営規則」第3条の規定から委員の半数以上の出席が必要となります。委員総数13名のうち10名の方が出席していますので、この会議が成立することをご報告いたします。 本日、傍聴の方はいますか。 1名の傍聴希望者がいます。 許可しますので、ご案内をお願いします。 ＜傍聴人 入室＞
生涯学習課主任	
首藤議長	傍聴の方をお願いします。会議を傍聴される方は、傍聴に当たっての注意事項をお守りになり、傍聴をお願いします。
首藤議長	(1) 第6次生涯学習振興基本計画について それでは議事に沿って進めさせていただきます。 「(1) 第6次生涯学習振興基本計画について」、事務局の説明をお願いします。
生涯学習課副主幹	＜第6次生涯学習振興基本計画について説明＞ ＜清水(カ) 委員入室＞
首藤議長	説明が終わりました。委員の皆様、御意見御質問等ございますか。
酒井委員	資料2P.2、骨子案に再掲として重複する箇所があるのは良いのでしょうか。

生涯学習課 副主幹	再掲につきましては、どうしても同じ事業が重なってしまっており、もう少し減らせないかと思直しを図ったのですが、それぞれの事業にまたがるもの、欠かせないというものは、再掲という形になりました。
首藤議長	取り組みの内容はこれからも変わる可能性がありますので、今回は柱の部分はしっかり決めていきたいと思います。
清水（マ）委員	アンケートについて、実施することは良いことだと思うが、小・中・高、二十歳、の回答のはずが、大人の意見、回答ではないかと思われるものが見られますが、いかがでしょうか。
生涯学習課 主任	小・中学生は保護者宛の「さくら連絡網」を活用してアンケートを送った。児童・生徒向けのもので、保護者の方は入力の手伝いをお願いしますと記載していたが、実際は保護者が答えてると思われるケースもあったので、実施方法を検討してまいります。
清水（マ）委員	保護者とか大人の方も生涯学習って何だろう、子どもが一体何を聞かれてるんだろうっていう視点、そして自分たちも考えられるような機会を持てたのではないかと、そういう意味ではこのアンケートは面白いと思っております。できれば定期的にアンケートを取っていただくと、子どもを含めた子育て世代もどういう風に生涯学習を捉えているのかわかるかなと思いました。
中島委員	基本理念のところで前回の会議で「ウェルビーイングな生涯学習」というワードが出てきてうれしく思いましたが、『多くの委員から意見があった』とありますが、どのような点が反対に繋がったのでしょうか？また、どのような経緯で「ウェルビーイング」というワードを指針に加えようと考えたのか、理念の設定の理由をご説明していただきたいです。
生涯学習課 副主幹	前回の会議におきましては、絶対反対という意見ではなくて、むしろ我々生涯学習課の出し方という部分で、ご意見を頂いたというところです。例えば前回の「Society 5.0」も、先に言葉が出てきて、それに対して計画を策定しても、定着しないのではないかとというご指摘を受けました。例えばそれを他の市の名前に変えても、動いてしまうぐらいの形になってしまう。そういうことであれば、むしろ上尾市独自のテーマを持ったものを表に出すべきというような意見をいくつか挙げていただいたところです。 「ウェルビーイング」は国、文科省が推奨しているということで計画に上げたのですが、そこを更に上尾市独自の地域性を加味した形で出せなかったという部分で、多くのご意見をいただき、その結果、「ウェルビーイング」という単語にこだわるのではなくて、しっかりした、その中身で取り入れたら良いのではないかとということで、今回、その基本理念から、「ウェルビーイング」という言葉を外させていただいた。ですから、考え方としては持っているというのは間違いないと考えております。
中島委員	「多くの委員から」というのが少し引かかるのですが、皆さんがそういうふうに思われていたのであれば。
首藤議長	今回は確かに「Society 5.0」の言葉に関係した取り組みがうま

	くいかなかった、そういう流行に乗った言葉を使うのは、今回の「ウェルビーイング」も同じような結果になりかねないという批判はありました。「ウェルビーイング」という言葉自体が問題ということではない。ですから、もっと目標を具体的に設定できるようなものに変えましょうと。それで「ウェルビーイング」から上尾市の上位の基本計画の言葉を使ったという風に理解しております。
近藤副議長	僕は「ウェルビーイング」を使うのはどうなんだという話を実際にさせていただきました。というのは、背景に「Society 5.0」が全く消化不良のまま、進んできたということが一つあるんですね。かつ、文科省の方から出てきた文書に「ウェルビーイング」が推奨されてましたっていう話だったり、つまり、国が言ってきたので上尾市の中にもそれを入れようという色合いが濃く感じる。つまり消化されていない。上尾らしい「ウェルビーイング」なら良いが、そうでなければ、言葉が上滑りするだけの話で、内容のないものになってしまう。むしろそういう「ウェルビーイング」の意味を持った、上尾市らしい言葉に置き換えられないかという話をさせていただいたような気がします。 決してその言葉を否定するわけではなくて、安直に取り入れてくるのはちょっとどうだろうという話をさせていただきました。全体として反対ということではなく、言葉の捉え方がそれぞれ違うので、消化しないまま、持ってくるというのはまずいのではという意見が多かったということであって、否定的なことではないですね。言葉の使い方をどうしようという話の段階の中でそういう案が出てきたということです。ただ、それがこの間の会議でそういう話が出てきました、次の会議では変わりましたということが良いかどうかということは、それは提案する側の問題としてあるとは思いますが。
中島委員	会議の後にアンケートをとったり、もう一度話し合ったり、そういう場があった上で、そこで多くの委員から意見があったということであれば良かったのですがそうではない。例えばこの会議が終わった後に、私が個人的に意見を申し上げれば通っていくのか、その辺の仕組みがわからないです。 でも、思いもすごくよくわかります。新しい言葉の受け入れは難しいですし、「ウェルビーイング」という言葉のイメージだけで入っていってしまうことは事実で、本当に文部科学省でも、どうしたらみんなにその大切なこと、本当に全世界に通ずる言葉として浸透させていくかというところで、だからこそ同じ反応なんだなと思いました。 ただこの「多くの委員」というところが市民に誤解を生んでしまうのではないかと、多くの委員の反対で「ウェルビーイング」という言葉をなくしたのが、「ウェルビーイング」がダメなんだ、と誤解されてしまうのではと思うので、その文言とかを少し整えていただけたらありがたいなと思いました。
須賀委員	実は、昨日、いわゆるコミュニティスクールの研修会がありました。これからの学校のあり方、特に9年間っていう義務教育の部分についての話であるとか、部活動の地域展開についての話を聞きました。最後にまとめとして、学校作りは、地域と地域作りが子どもたちを幸せにする、ウェルビーイングに繋がるんだという言葉が昨日聴きまして、「ウェルビーイング」っていいなというふうに高まったところで、今日ここで落とされた感じがするんですね。

	教育委員会、昨日もだいたいここに参加されていた、かなりの人数の方々は「ウェルビーイング」が頭に入ったと思うんですよ。日々やっぱり変わると思うんで、独自の案を検討中なのであれば、もう１回検討してもいいのかなというふうに考えます。
中島委員	先日、地域の民生委員さんの研修会がありまして、「ウェルビーイング」について研修をしてほしいという要望があって、話をさせていただきました。民生委員さんたちみんな感動していただいて、もしかしたら、いろいろ生涯学習に関わっている方もたくさんいらっしゃるので、そういう期待値は大きいかなと感じたところです。
首藤議長	「Society 5.0」から始まって、それがうまくいかなかったというところで、具体的な取り組みをどうするか、評価をどう設定していくか、それが曖昧になりかねないという様々な意見があって、「ウェルビーイング」という言葉がいけないということではなく、それを基本理念と設定することで、「Society 5.0」のようにならないように「ウェルビーイング」の中身を少し具体的に言いかえたのが「夢を育み、未来を創る」。その結果「ウェルビーイング」な市民生活が送ればいいわけですから、「ウェルビーイング」という言葉は基本理念の一部には出てきていませんが、この次に、例えば上尾市の基本計画に「夢を育み、未来を創る」についての解説があります。基本理念の解説の中に必ず「ウェルビーイング」という言葉も出てくるものと、理解はしてるんです。 問題は基本理念に「ウェルビーイング」という言葉を使うかどうかのこの意見がわかれるかなというふうには思うのですが。 事務局案としては、それをその説明には持ってくるけれども、基本理念には「ウェルビーイング」という言葉は使わない、というのが提案かなと思います。「ウェルビーイング」の考え方を否定することではない。 学習指導要領の改訂作業を進めていますが、意外と「ウェルビーイング」という言葉は出ていないですよ。
中島委員	学習指導要領には総論と各論があって、先週のニューズペーパーに出ていましたが、ウェルビーイングという言葉を入れることに決定しましたということがしっかり載っています。最初に出たときには、確かにわかりづらいから日本語にしようということのでかなりの議論があった。しかし、やはりあれだけ浸透して、日本中が動き始めているので、今これをなくしたら、ウェルビーイングをやめてしまうのだ、戦争に向かうんだ、と誤解する人さえいる、だから絶対「ウェルビーイング」は外せないということで、皆さんも先週発表された最新の学習指導要領要点整備の資料の一番最初の結果を見ていただけたらと思います。
首藤議長	「アクティブラーニング」が実は学習指導要領から消えて「主体的・対話的で深い学び」と言い換えられました。なぜ変えたのか文部科学省に聞いたら、「学習指導要領は法律だから、カタカナはいろいろなところから批判が来るから変わったという経緯があった」とのことです。今回の「ウェルビーイング」もそうなるのかなと心配はしていたのですが。 基本理念の文章にこれを入れるかっていうところですけども、目指すことが大事かなという気がします。

生涯学習課長	事務局から何かありますか。 前回、基本理念として「ウェルビーイング」という言葉を出した際に、こちら側もきちんとした読み込み、把握が足りないのではないかと、というご指摘がありました。そして文部科学省の提唱をそのまま使うというのともいかなものか、それはその言葉がどうこうではなくて、事務局側の取り扱いについてのご意見だったかと思います。今回、「ウェルビーイング」そのものを基本理念から外しましたのは、ご意見を意見書の形でいただいたもので、その考え方は素晴らしいというご意見もいただいておりますし、上尾の「ウェルビーイング」をきちんと表現できるのであればいいのではないかとというご意見もいただいております。ですので、「ウェルビーイング」を我々も否定しているわけではないのですが、基本理念として表現するときに、上尾市らしさとして出すのが、どうにも汲めなかったということがございます。そして、上尾市としての基本理念ということであれば、「ウェルビーイング」の意味を含めた教育振興基本計画の考え方が生涯学習にも繋がっていくのではないかとということで今回の提案をさせていただいたところです。資料の中で、基本理念を変えた経緯の説明については、事務局の印象で書いてしまっている部分が確かにありましたので、その点は本当に申し訳なかったと思います。 それでいろいろ誤解を与えてしまったり、違うのではないかとというご意見になったことは十分に理解しております。ですので、そういった点も含めまして、「ウェルビーイング」の考え方は今の、これからの世の中の考え方であると思いますので、取り組みの内容等では、意識して進めていくべきことと考えております。その上で、基本理念について、改めてご意見をいただければと思います。
教育総務部長	例えば、本文として「夢を育み 未来を創る生涯学習」、サブタイトル的なものとして、「ウェルビーイングな社会に向けて」というものを横に付けるといようなこと、そういったウェルビーイングな社会に向けた取り組みの中に上尾市として、教育振興基本計画の基本理念とかぶるところを重ねるとい、そこで上尾市らしさも出すし、ウェルビーイングを目指しているんだとわかるようなサブタイトルを付けるというのも、私の勝手な発想ですが、そういったものも考え方としてはあるんじゃないかなということを意見として申し上げさせていただきます。折衷案ではないですが、どちらかということではなくて、うまくそういった表現の仕方で、まとめることもできるのではないかとこの気はしております。
首藤議長	上尾市の教育振興基本計画にはサブタイトルはついてない。むしろ「ウェルビーイング」という言葉も全てに関わりますので、そちらの大きい方についていけば、生涯学習の方もそれを踏まえてという形で、使いやすくなるのかなと。上尾市独自の「ウェルビーイング」の姿というのは何か。違いがありますかね。違いを出そうとする言葉でなく、大きな目標、生き方を目指しましょうという言葉なので、上尾市らしさを出そうとすると、どうしても「ウェルビーイング」という言葉は使えなくなってしまうのです。 だから生涯学習の上尾市らしさを出すということで、上尾市の基本計画の上位の計画がありますから、それに基づいた方が上尾市らしいし、そういう事務局の考え方があるのかなと思います。 「ウェルビーイング」はとても大事な考え方ですので、サブタイトルで触

曾我部委員	れていくと。さらに基本理念を説明する文章の中で「ウェルビーイング」は当然、出てくるかなと思います。 今聞いていて思ったのですが、第5次から第6次に変えていくわけですが、例えばいろいろな事業が横文字になって、イメージアップしているとあるんですよ。例えば上尾市の人権教育に関して言っても、人権男女共同参画課で、「ヒューマンライツ」という言葉に変えて、そしていろいろなイベントをやることによって、昨年とか大幅に変わってきてるわけですよ。そう見ると、ウェルビーイングが上尾の学校で非常に人気で全国的な人気もあるんですよ。そうすると、私が別冊資料1を見て思ったんですけど、基本目標1～3がありますよね、そここのところの表現が、第5次計画までの表現から脱皮できたような感じもするんですよ。例えば、基本目標1の「幅広い学習の機会の提供」とありますが、これ「幅広い」という表現、いろいろな表現の仕方がありますね。ですが、思い切って、例えば私が今思ったのは、「バラエティーにとんだ学習機会の提供」として、具体的な取り組みの中に「ウェルビーイング」を設けるとか、これからの時代にマッチするだろうという表現を入れると、またそういう弾力的な捉え方をされた方がいいかなと思います。それから2番目の「学びを支える体制の構築」ですが、「体制の構築」という表現は、戦後の体制作りかなという感じですよ。それから3番目の「人をつなぎ、未来をつなぐ」とありますが、これは「未来へつなぐ」ではないでしょうか。他の資料はどれも「未来へつなぐ」とありますが、これだけ「人をつなぎ、未来をつなぐ」となっています。これはどういうことか、見直された方が良くはないか、確認してもらえたらと思います。
近藤副議長	前回、提案されたものがあまりにも具体的なところに「ウェルビーイング」とついてくると、言葉の使い方として違ふだろうという話になってくると思うのです。これは大目標だと思うんだよね、世界に対して、国に対して、町に対して、そういうものだと思う。ある意味で言えば、不滅の人類共通の標語ですよ、「ウェルビーイング」というのは。だからそういう意味で考えると、そういう大目標があって、では上尾市はどこへ向かっていこうという話をしているということなんだよね。 だから、生涯学習にその思想考え方を取り入れたときに、上尾らしい生涯学習というのは教育委員会が背景を持ちつつ、どういうことをしていくのか、どういう基本理念でどういうふうに展開していくかということを求められているんだろうというふうに僕は考えています。だから「ウェルビーイング」の使い方として、上尾らしいものというのはどのように表現できるんだという話をさせてもらいました。その言葉そのものを否定するわけじゃない。ただ「ウェルビーイング」と聞いたときに、「それ何？」と聞く人は多いと思う。だからこれこれこういう活動を通して「ウェルビーイング」な世界、地域、そういうものを実現していくことができるんだという説明に繋がっていくんだと思います。そうすると、さっき須賀さんが言ったように、この説明についてはこれがよく理解できた、という話になってくる、そういう置き場所なんじゃないかなと、僕はそんな感じがします。
清水（マ）委員	「ウェルビーイング」自体は素晴らしい理念なんです。ぜひ、上尾市独自の「ウェルビーイング」感を持って、施策に取り組んでいただきたい。生涯学習という切り口で考えますと、やはり個人レベルでの目的というところに

	なってくると思うんです。この場合ですと、充実とか、達成ということを目的として取り組んでいただきたい。それがこの地域社会全体のウェルビーイングの向上に結びついてくるような、そういう繋がりになっていくような取り組みを、私は期待しています。先ほどおっしゃられたように、「ウェルビーイング」という考え方というのは、人それぞれによって解釈の仕方が違うと思いますし、理解の仕方も違うと思います。ですから、そこに至るまで、理解をしてもらうまでの道筋というものはとても大事じゃないか。それをやっぱり体感してもらうことでウェルビーイングというのもわかってくれれば良いかなと。これがそうなんだ、結果的にウェルビーイングな生き方だったよね、いい人生だったよねっていうような、そういうふうな生涯学習を目指してもらえれば嬉しいなと私は思います。
首藤議長	1人1人の「ウェルビーイング」がありますけど、それぞれの人の「ウェルビーイング」が相互に作用しあう、相乗効果があるという考え方もあります。それが地域であれば地域の「ウェルビーイング」になる。その考え方がわかるように、サブタイトルもしくは理念の説明のところで、「ウェルビーイング」という言葉を使って理念を説明、解説するということを提案したいと思いますが、いかがでしょう。 これは評価する観点にもなるので、「ウェルビーイング」の観点からの評価方法を作っていくという考え方もあるのかなと思います。目標値を決めるときに、数値だけでない、いろんな意見を汲み上げるときの観点として、「ウェルビーイング」を使うのも一つかなと思います。 以上の趣旨を踏まえて、この基本理念、「夢を育み 未来を創る生涯学習」、認めていただけますでしょうか。
各委員	異議なし
首藤議長	ありがとうございます。 次に、理念にも関係ありますが、骨子案、あとは運用方針について、先ほど曾我部委員から、基本目標の言葉がいいかどうか、特に「3 人をつなぎ未来をつなぐ学習事業の展開」の「未来を」を「未来へ」に修正するというところでよろしいでしょうか。他に言葉のご指摘等ありました。
生涯学習課 副主幹	「未来へ」に修正させていただきます。「体制の構築」については少し考えます。
首藤議長	第5次計画の「つくる・支える・つなぐ」もシンプルでわかりやすいのですが、目標値までつくるという考え方が今回はありますから、そのためには中身がわかるように表現しようということで理解しています。
若原委員	基本目標について、先ほど説明の中で教育振興基本計画の部分に合わせるということは動かせないとあったと思うのですが、どの程度自由度があるのでしょうか。
生涯学習課長	大きく変更というのは難しいのですが、表現や、取り組みの位置づけ等は、変更の自由はあります。

清水（マ）委員	具体的な取り組みのところで、子ども大学が今回見当たらないのですが、どこにいったのでしょうか。
生涯学習課主任	文章としては、旧から削除しているように見えますが、内容としては「3－2 未来へつなぐ生涯学習」の中の「若い世代向け講座・事業の実施」の中に含まれております。まだ検討段階ですが、第5次計画では具体的な事業名が入りすぎたかなというところで、第6次計画では取り組みとしていろいろな事業が入るようにしたので、今後廃止するという予定ではありません。
首藤議長	若い世代向け講座の中に含まれているということですが、子ども大学は大切な事業ですから、子ども大学というのは「具体的な取り組み」に書いていただけると良いかなと思います。
近藤副議長	印象として、「若い世代」となると、私のイメージでは18歳以上なので、若い世代向け講座や事業に「子ども大学」が入ってくるイメージがない。ということもあります。
首藤議長	子ども大学は子ども自身が技術的なことを探求するということ以上に、世代の違う人たちが、世代間の交流が地域の中で行われる、という意義がありますから、若い世代向け講座よりも幅広い教育的な意義があるのかなと思います。やはり別立てで作ってもらえるといいのかなと思います。
曾我部委員	子ども大学の「ども」はひらがなで、放課後子供教室は漢字なんですけど、もし問い合わせがあったら、余程の説明が必要だと思います。どちらも表現として間違いではないのですが、この機会に上尾市として統一された方がよいのではないかと思います。文部科学省は漢字表記を使うことが多いようですが、一般的な社会、今の表現はどちらかと言えば、ひらがなだと思います。中には子もひらがなにして「こども」とすることもあります。
生涯学習課長	ご指摘ありましたように、上尾の放課後子供教室事業につきましては、文科省の制度で漢字にしております。ただ、世の中の表現ですとか、他の事業の関係もあり、来年度以降は基本的には「子」を漢字、「ども」をひらがなに変更する予定です。
首藤議長	上尾市で統一するということですか。
生涯学習課長	生涯学習課で統一するということです。「こどもまんなか」ということで、部署によっては「こ」もひらがなにしているので、全部ひらがなにすることも検討したのですが、一般的には「子」が漢字の子どもが一番多いだろうということで、そちらの方に変えさせていただきました。
首藤議長	運用方針で目標を設定し、自己評価をする。それを年度ごとにやっていくというご提案ですが、そうすると、社会教育委員会議は通常は2回ですが、自己点検もしっかり行うとなると、今後は3回行うという理解でよろしいでしょうか。2回目の会議で進捗状況をチェックして、そしてチェックアクションが後半にきて、最後2月にきちんと1年間の評価、それから来年の計画へと、そういう流れになるので、今まで以上に厳密になりますから、きちん

と振り返って評価しなくてはいけないということが求められるようになる。どうしてもこの委員会はそれぞれの団体からの代表者が来ていますので、それぞれの団体が行う活動の中身について、この委員会があまり口を出すのはばかられるかと思います。今度3回になると、取り組みの内容について言うことはないにしても、進捗状況を見て、あまりできていない等、そういう指摘がもしあったときに、それぞれの団体が持ち帰って検討して修正案を出して、そしてまたそれを修正していくということが求められますよね。より、厳密な社会教育活動が求められるということになります。

そういう提案というふうに理解してよろしいですか。

近藤副議長

僕自身は、公民館に携わる者としては、この後、公民館運営審議会での作業も含めて、非常に難しいところにきてしまったという感じがします。公民館それぞれ、自己評価をしています、それも結局目標を立ててどこまで達成できたか、僕らからすれば、あまり高い目標を立てたらいつになっても達成できないでしょという話になってくるし、かといって、あまり低い目標だと、それはあまりにもという話になるし。だけど、これは先ほどの「ウェルビーイング」や「Society 5.0」も同じで、どこに評点をもっていくのかということ相当きっちりと決めておかないと、本当に求めるような評価は出てこないのではないかと思います。だから前作業がすごい大変になってくるような気がします。共通項目、共通の意識を持たなくてはいけないのです。

評価をするということは、共通認識を皆が持った上で、どれだけの評価を下すかということであって、しかも、それが10人いた、13人いたからその平均を出したから、それが本当に良い評価かということそうじゃないっていうことになる。だから、どこをどのように評価するのかということに相当エネルギーを使わないと、統計じゃないのだからという話になるのではないかと思います。たくさん臨んでいただくのもいいし、我々もそれに対してチャレンジしていくつもりはあります。ただ、そここのところの方向性を間違えないでもらいたい。そうでないと、結果的にみんなが苦労したり、本当に望むべきものが生まれてこなかったということを心配してしまいます。あまりがんじがらめにすることがいいのかどうかというそんな碎けた話から始まって、さあ本当にどうするかということまで練り上げてもらいたい。そういう役目をこの委員会は果たしていくのだろうと思います。

それ以外は、社会教育委員は、個人に委嘱されてるわけですから、それぞれ個人の意見を言って構わないと思うけど、全体としての評価をするということになれば、これは合議制ですから、その辺のところの捉え方も生涯学習課の方でレベルをきちんと揃えてやってもらわないといけないと思います。

首藤議長

最初の年度の目標設定は神経を使いますが、それぞれの団体、きちんとやっているとすけれども、途中で中間評価をして、ここに持ち寄って、私達が共有できるというところに意義があるのではないのでしょうか。そういう意味がこの提案に含まれているのでしょうか。

若原委員

今ご意見あったように、何を指標にして、どういうふうに評価していくのかということすごく大事なので、1年間かけてこれを議論するというぐらいでも良いと思います。いつからスタートするのかということこちらで決めてもいいと思いますので、1年間は評価をどうやっていくのかというこ

	とを、例えば来年のテーマにするというくらいでも良いと思います。 もう一つ、この会議での議論の仕方をもう一度検討していただきたいと思うんですよね。今のように事務局から案が出てきて、それをいろいろ意見を出し合ったり、会議後に意見を集約するやり方だと、我々の意見もあまり伝えられていないと思いますし、事務局側も委員の意見をうまくくみ取り切れていない気がします。なのでそうではなくて、いきなり案を出すのではなくて、まずはこの場で議論を出しながらもんでいくとか、そういう議論に職員さんも一緒に入ってもらって、議論して、それを形にしていくという積み上げ型でやっていく方が良いと思うんですよね。そしてそれは多分今までの会議の回数では無理だったと思うんですけれども、今後、3回になっていくようなので、まあ3回でもちょっと少ないような気もしますが、もう少し時間的にできると思いますので、そういうふうなちょっと会議の持ち方も含めて検討していただけるといいかなと思います。
首藤議長	積み上げ式に近づけるように、進行してまいりたいと思います。 事務局が単独で勝手に決めて提案したわけではないのです。たくさん案はあって、私は事前に説明を受けていて。私とのやりとりはあるのですが。 事務局から補足説明はありますか。
生涯学習課 副主幹	先ほどからのお話の中で、評価に関しては、かなり難しいのではないかと いうことで、指標を作るにしても、それをどういうふうに評価していくとい う部分に関しては、この場ですぐに目標を設定するのではなくて、具体的に この事業はこういった指標に向かってどの程度に置くか、そういったものの 議論をしていただいた上で決めた方がいいということによろしいでしょう か。もちろん計画は計画として決めるのですが、進め方の部分に関してどう するかです。
首藤議長	各取り組みごとに、こういうことを目指しましょうね、これぐらいの規模 の講座を目指しましょうとか、そういうのは今までも目標があったと思うん です。それをきちんと取り上げてまとめていきましょうという、それが各 目標の指標になるのではないのでしょうか。取り組みごとに指標をまず作っ て、それは大きなものでなくてもいいです。
生涯学習課 副主幹	例えばイベントであれば、参加者の増減や、アンケートをとった結果、ど のくらい満足したかとか。そうしたら、果たして何人来たらいいのか、何人 満足だったらいいいのか、そういったところは人によって違ってしまう。
首藤議長	取り組みの主体の判断になると思いますけど、人数が少ないからうまくい かなかったのではなくて、きちんと意見や感想を分析しましょうと。意見や 感想を分析していくということが一つの目標になるのかな。 これは「ウェルビーイング」とも関係して、例えば5年後に上尾市民のウ ェルビーイングが第6次計画が始まる前と終わった時点でどう変わったか、 が一番大きな評価になるかなと。まあ、そこまでやるかどうかですけれども。
近藤副議長	「ウェルビーイング」の目標が達成できたかを評価するというのは非常に 難しい気がします。

首藤議長	参加者の感想をきちんと取り上げていくということはそれぞれの取り組みでは、今でもやってることですね。それをこちらできちんと把握しましょうということですね。自己評価の厳しい人は「ウェルビーイング」が低下するかもしれない。自己肯定感の低い人が今までは問題だと言われていましたが、自己肯定感が低いというのは向上心があるということですから。向上心も低くて自己肯定感も低いというのはちょっと問題がありますが、反省点が自分でわかって、改めていこうとする向上心があるならば、これはポジティブに評価できる。そういう点も踏まえて、各取り組みの評価をまとめる際に、こちらが考察していくということが全体の評価につながるのかなと思います。数値として取り上げるのではなく、5年ごとに意見を聞いて、というのは難しいので取り下げます。 各取り組みの評価をしていく。基本目標、施策の柱で、若干の文言の修正をこれからもあるかもしれないですけども、この3つの基本目標を設定するというのはこれでよろしいでしょうか。そしてそれぞれに施策の柱があります。これについてもこういう方向で行っていくということでもよろしいですか。もし変わるところがあったら連絡していただければと思います。 それでは、基本目標、施策の柱は今回の提案でいきたいと思います。また、運用方針についても目標を設定していく、それを自己点検して中間評価していく。そういう進め方を行うということでもよろしいでしょうか。目標についての案は、今回の資料で言うと4ページめに出っていますが、これに該当するもので、こういった観点から評価した方がいいというのがあれば、基本的には取り組みの中で行っていくということですね。 最後、施策の柱がきちんと機能してきたかというところはこの委員会で毎年確認していくことになると思います。この会議で把握する、そして次の上尾市の社会教育、生涯学習を考えていく上での資料にしていくということですね。 基本目標、施策の柱、とりあえず案をとるということでお願いいたします。ご意見どうもありがとうございます。 それでは、議案「(1) 第6次生涯学習振興基本計画について」につきましては、当会議として概ね妥当との意見とさせていただきたいと思います。 事務局におかれましては、今回出ました意見も参考に引き続き計画の策定につきまして進めていただきたいと思います。
首藤議長	(2) その他 次に「(2) その他」について、事務局の説明をお願いします。
生涯学習課主任	<第6次計画における社会教育委員のあり方について説明>
生涯学習課副主幹	補足をいたしますと、まず会議の回数については、予算が取ればということにはなります。 もし1回増やすことができた場合、先ほどの説明のあったこともお願いしたいのと合わせて、これから立ち上げる、または拡大する事業について、具体的に放課後子供教室の関係であったりですとか、様々な事業についてお伺いできればという風に考えておりますので、そういった形で委員の皆様にご協力いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

生涯学習課主任	<次回会議の時期について説明>
首藤議長	委員の皆様、全体を通して何かご意見等ございましたらお願いします。 よろしいでしょうか。 以上で予定された議事は終了いたしました。 ご協力ありがとうございました。これで議長を降ろさせていただきます。
生涯学習課長	5 閉 会
近藤副議長	首藤議長、ありがとうございました。 では、閉会のご挨拶を近藤副議長からお願いします。
生涯学習課長	<閉会挨拶> 以上で予定された議事は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。 これをもちまして、令和7年度第2回社会教育委員会議事を終了とさせていただきます。 （午後3時46分終了）